

家 マイ・タイムライン 作成年月日 年 月 日

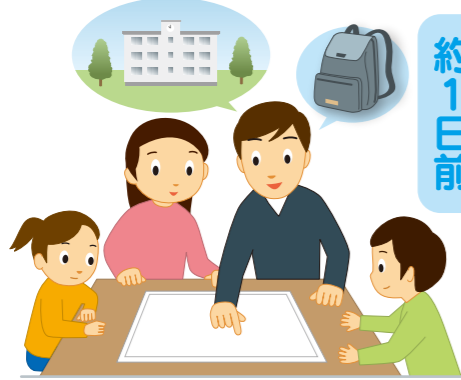
注意しなければ
ならない対象河川

緊急避難
場所等

避難情報と時間の目安

主な行動内容

警戒
レベル
1



約1日前
大雨の

心構えを高める

- 非常持出品リストの確認と準備
- 気象情報、防災情報の取得方法の確認
 - dボタン
- 避難先の検討
 - 避難場所、親戚・知人宅、ホテル、自宅の上階等
- 携帯電話の充電
-

警戒
レベル
2

大雨注意報
氾濫注意報

数時間前
大雨の

避難行動を確認

- マイマップを確認
-
-

警戒
レベル
3

高齢者等避難

大雨警報
氾濫警報

数時間前
河川氾濫の

高齢者などは避難!

- 川の水位や雨量、洪水予報を確認
- 避難場所の開設状況を確認
- 近所の高齢者等へ声掛け
-



警戒
レベル
4

避難指示

大雨危険警報
氾濫危険警報



全員避難!

- 避難先を家族や大切な人に連絡
-
-

警戒
レベル
5

緊急安全確保

大雨特別警報
氾濫特別警報



命を守る行動をとる

- 自宅内の浸水が想定されない場所で身の安全を確保

メモ

▶ 自助・共助・公助

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは「自分の身は自分で守る」こと、共助とは「家族・近所でお互いに助け合い地域を守る」ことを指します。また、公助とは「公的機関からの救助や支援」を指しています。災害の発生を完全に予見し防ぐことはできませんが、自助、共助、公助が連携し、効果的に機能することで、被害を減らすことが可能です。



▶ 自主防災組織の役割

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の連携に基づき、結成される防災組織のことです。自主防災組織は、災害発生時に、お互いの身を守るため、平時からの防災訓練を含めた防災活動を行います。災害時に効果的な活動ができるよう、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるとともに、地域住民が一体となり防災活動へ取り組むことが重要です。

日常の活動例

- **防災知識の普及**
防災講演会の開催、防災チラシの発行など。
- **地域の危険箇所等の把握**
災害危険箇所・防災上有効な施設の把握、地域防災マップの作成など。
- **防災訓練**
情報伝達・避難、避難場所開設・運営、初期消火、応急手当、給食・給水訓練など。
- **防災資機材の整備**
防災活動で必要となる資機材の整備や確認など。
- **要配慮者への支援**
高齢者、障がい者など災害時に支援を要する方の事前把握・支援計画の作成。
- **防災に関する地域のコミュニケーション**
日頃からの声かけ、要配慮者への支援体制の確立。

災害時の活動例

- **初期消火活動**
地震の時の出火防止、火災が拡大するまでの初期消火、消防隊が到着するまでの延焼拡大防止。
- **避難誘導**
正確な情報による安全な避難経路を経由した住民避難誘導。**※要配慮者(高齢者、障がい者などの支援を要する方)を優先。**
- **救出・救援活動**
負傷者の救出や応急手当の実施、重傷者の病院搬送。
- **要配慮者への支援**
要配慮者への情報提供・避難支援。
- **情報収集・伝達活動**
防災関係機関・地域内の情報収集・伝達。
- **給食・給水活動など**
避難場所での食料・飲料水、救援物資の配給、炊出し。

上記の気象情報の名称・区分は、令和8年5月下旬(予定)より新たに実施予定です。